

第37回フォーラム 効率一辺倒はもうやめよう！

日時：H29年7月13日（木）

18：00～19：30 講演

講師

津曲 公二（つまがり こうじ）氏

鹿児島県生れ、父は日向の国鉄肥

（おび；宮崎県日南市）の出身。

母の出身地（鹿児島県志布志市）で育つ。

東京大学工学部マテリアル工学科卒業、1972年日産自動車入社。50才のとき、同社退職。研修企業勤務を経て、2003年5月に酒井昌昭とともに（株）ロゴを設立し現在に至る。代表取締役社長。プロジェクトマネジメント、仕事の正しい進め方などの研修や現場支援サービスをおこなっている。2012年から東京都市大学で非常勤講師を務める。近著に、津曲・酒井の共著「日本のものづくりを救う！最強のすり合わせ技術」（2017年 日刊工業新聞社）がある。



概要

講師の津曲様が代表取締役を行う（株）ロゴでは、マネジメント研修、階層別研修、回へ嶮設計現場の改善コンサルティングなどを主たる業務としている。仕事の9割は「段取り」で決まるなごの著作があり、仕事は「人間中心に」など、講義を聴講する人や書籍を読まれる方にメッセージを流す。その人間を中心にという中で、単なる作業から仕事へ買えること質の向上を果たすことが大切で、指示されたことをその通りに行うことは作業であり、その作業の意味が分かり、価値が分かるように助言することでやる気が沸き、質の高い仕事に変化させられると説く。

仕事を上手に捗らせるには指示の仕方に工夫が必要だ。例えば、「効果的にやってね」と言うよりは、「的を外さないでね」と言えば、仕事のアウトプットである成果物をイメージしてムダなく行うことができる。また、「よく考えてね」という意図が不明確な方法よりは、成果物や納期、費用などを指示した側と実行する側で共用し、迷いを無くしてあげれば、迅速に結果が得られると言う。

「効率一辺倒はもうやめよう！」という趣旨は、何も生産効率や資源使用の効率追求を追い求めることは無意味だから止めようということではない。「現代のグローバリズムは、利益（金儲け）第一でという効率至上主義である。平等でオープンな環境をもつ日本は、世界で唯一社会の安定を成し遂げた。しかし、成り行きに流されてグローバリズムを鵜呑みにすれば、わが国そのものが衰退することになる（第37回フォーラムパンフレットより）」と警鐘を鳴らす。

効率には、見せかけの効率とほんものの効率があるという。例えば直間比率の直接比率を高めようと間接の仕事を減らしても、その間接の仕事が、少しだけITで補助されて技術者の負担になり、エンジニアがすべき本来の仕事の効率が落ちたという事例もある。効率を表す指標だけを振り回すと逆効果だと、近著の日本のものづくりを救う！最強のすり合わせ技術」で紹介している。TOC（制約の理論）の考えもとに、ボトルネックを解消するといった解決方法がよりよい効果をもたらすと言う。

お互いの役割分担が不鮮明でも何とかして来たのが日本企業ではないでしょうか。そうした「すり合わせ」も日本が誇るべき技術でしょう。現場の製造側から設計部署へ改善箇所を求めるなどは、日本だからこそ出来ます。講師の津曲様は、どの階層の人物でもリーダーが務まるのも、日本の特長と指摘します。

平等でオープンな社会。優れた協調性。部下を育成する気風。次第にこうした強みも、グローバルな動きや成果主義のなかで埋もれ掛かっているように感じる昨今ですが、「すり合わせ技術」で協働できる組織能力を活かすのが大事と学んだフォーラムでした。

(文責：フォーラム担当石川)

19:50~20:55 懇親会（別会場）

当日の概要

参加者：32名

アンケートよりの抜粋

- 講演内容について
 - ・現状の不安感への対応といった視点で役立った
 - ・世界の中の日本の在り方について課題がよく理解できた
 - ・マネジメントのクオリティを高めることの参考になった

